

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2024年7月30日 (Vol.184)

文月、葉月に観たい北斎の「富嶽三十六景」と俳句

## 文月、葉月に観たい北斎の「富嶽三十六景」と俳句



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Red\\_Fuji\\_southern\\_wind\\_clear\\_morning.jpg#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Red\\_Fuji\\_southern\\_wind\\_clear\\_morning.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Red_Fuji_southern_wind_clear_morning.jpg#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Red_Fuji_southern_wind_clear_morning.jpg)

富嶽三十六景 凱風快晴 (がいふうかいせい)

めぐりくる季節に合う名画と俳句、今年は葛飾北斎（かつしかほくさい）（1760～1849）の代表作で、日本美術の歴史を語る上で欠かすことのできない傑作として、国内外の人々に広く愛されている「富嶽三十六景」を紹介しています。

今回はその四回目として文月、葉月に観たい作品と俳句です。

19世紀後半のヨーロッパ芸術界を席卷した「ジャポニズム」。

その火付け役となったのは、日本からフランスに輸出された陶磁器を包む緩衝材として使われていた「北斎漫画」だと伝えられています。

これがある芸術家の目にとまり、そのデッサン力と多くのモチーフをいくつものパターンで表現する発想力に驚き、それがきっかけで、北斎や広重を筆頭とする日本の浮世絵など彼らの芸術作品が注目を集め、瞬く間にヨーロッパ中に広がって行きました。

フィンセント・ファン・ゴッホ、エドゥアール・マネ、エドガー・ドガをはじめ印象派の名画家たちが心酔し、天才ガラス工芸家エミール・ガレなど工芸の世界で活躍する芸術家たちも北斎や広重の作品の影響を色濃く受けました。

2020年、日本のパスポートが28年ぶりにリニューアルされ、査証ページの背景に「富嶽三十六景」の作品が敷かれるようになりました。

また、今月発行された新千円札の裏面に「神奈川沖浪裏」が採用されています。

まさに今、注目されている「富嶽三十六景」のうち文月、葉月に観たい作品と俳句をお楽しみ下さい。

# 1. 富嶽三十六景 二 凱風快晴 (がいふうかいせい)



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Red\\_Fuji\\_southern\\_wind\\_clear\\_morning.jpg#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Red\\_Fuji\\_southern\\_wind\\_clear\\_morning.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Red_Fuji_southern_wind_clear_morning.jpg#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Red_Fuji_southern_wind_clear_morning.jpg)

「赤富士」の愛称がある本図は「Great Wave」こと「神奈川冲浪裏」と同じくらい海外でも有名な作品です。

「赤富士」は一般的には、山梨県側から眺めた晩夏（新暦七月）から初秋（新暦八月）の早朝、いわゆる裏富士が東からさす朝日を浴びて赤く染まる現象をさします。

わずか10分か20分ですが、赤々と輝く富士山は神秘的かつ雄大です。

北斎もその現象を描いたもので、翳雲が広がる青い空を背景に、堂々と聳え立つ富士山の斜面全体が日の出の赤い光によって赤銅色に彩られています。

タイトルにある「凱風」とは、晩夏に吹く穏やかなそよ風のこと。温度差が大きい季節は霧（もや）がかかりやすいのですが、凱風が霧を流し去ってくれ、山容がくっきりとしています。

この作品が高く評価されている理由は、その簡潔な構図と配色にあります。

白い雪をかぶった一般的な富士山ではなく、夏の富士山を強調した赤茶けた地肌、翳雲が浮かぶ空はベロ藍と呼ばれるペルシアンブルー、点描（てんびょう）とぼかし摺りを駆使した山裾の樹海の緑。

わずか三色しか使っていないにもかかわらず、夏の富士山のどっしりとした雄大な存在感を見事に描いた傑作となっています。

さまざまなアングルで富士山を描いている「富嶽三十六景」シリーズ全四十六図ですが、その中で、「凱風快晴」「山下白雨」は、作品タイトルに地名が入っていない二図で、北斎の当シリーズの制作の構想の中でも特別な位置づけであったと考えられます。

その観点から「凱風快晴」と「山下白雨」は特定の地点から見た実景に基づいているのではなく、北斎にとっては夏の富士の姿を描くことが目的で、どこから見た富士山であるかはたいした問題ではなかったと思われまます。

なお、タイトルは「凱風快晴」ですが、作品の空一面に翳雲が広がっています。北斎が何故、快晴としたかの謎は今も解けていません。

タイトルである晩夏の季語「赤富士」を詠んだ句を選びました。

赤富士に露滂沱（ぼうだ）たる四辺（しへん）かな  
富安風生

滂沱＝水、露、汗などが激しく流れ落ちるさま。

赤富士の雲紫にかはりもし  
阿波野青畝

ここでは「赤富士」の緑がかった裾野の樹海を描いた手法と同じ点描画法を創始した新印象派の画家、ジョルジュ・スーラ（1859-1891）の作品を紹介します。

点描法とは、パレットで絵の具を混色することなく、原色でキャンバス上に小さな点配置して描く技法です。

遠目では点が集まって色と形が認識され、明るい画面を実現できます。

スーラは31才の若さでその生涯を閉じているため、残した作品はごくわずかです。

スーラは夏になると海岸の町に滞在して、数点の風景画を制作するのを習慣にしていました。

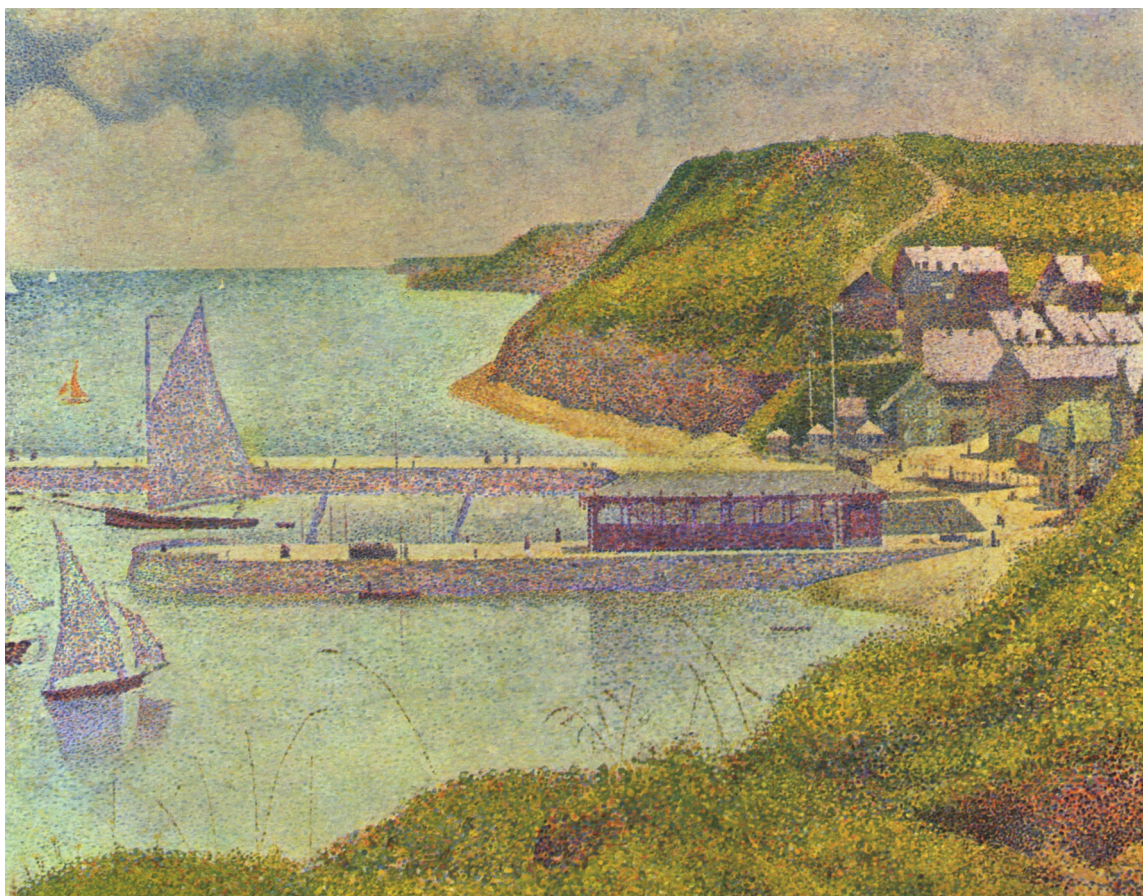
1888年の夏はノルマンディーの小さな漁港であるポール・アン・ベッサンで数点の作品を制作しています。

紹介するのは、その中の「ポール・アン・ベッサンの外港」です。

この作品は、高台から港を見下ろすようにして描かれたもので、夏の日中の日射しを浴びた海と港の様子が点描だけで描かれています。

鮮やかな無数の点キャンパスの上で溶け合い、リアルな真夏の昼下がりの光を鮮やかに表現しています。

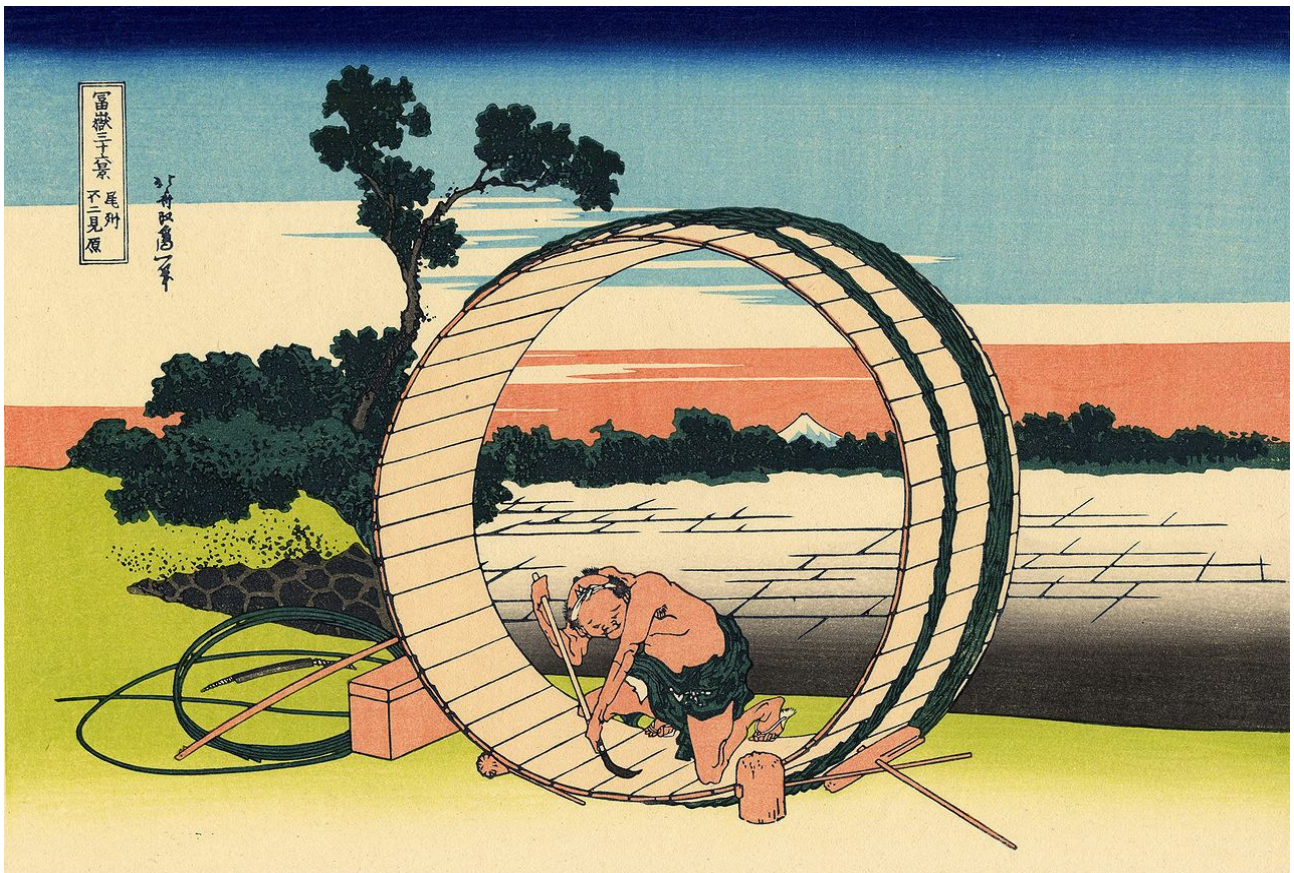
スーラは点描法の創始者とされていますが、北斎の「凱風快晴」の方が描かれた年代はスーラの作品より50年ほど早く、スーラも北斎の作品を参考にしていたかも知れません。



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Georges\\_Seurat\\_049.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Georges_Seurat_049.jpg)

ジョルジュ・スーラ（1859-1891）「ポール・アン・ベッサンの外港」オルセー美術館

## 2. 富嶽三十六景 五 尾州不二見原 (びしゅうふじみがばら)



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Fujimi\\_Fuji\\_view\\_field\\_in\\_the\\_Owari\\_province.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Fujimi_Fuji_view_field_in_the_Owari_province.jpg)

「尾州不二見原」は、富嶽三十六景の中で最も西から、また最も遠いところから富士が描かれたとされるものです。

通称、「桶屋の富士」とも呼ばれ、国内外で人気の高い作品で、現在の名古屋市中区富士見町からの眺望とされています。

巨大な桶を中央に配し、その彼方に小さく山容が見え、桶の中で上半身裸の職人が槍鉋（やりかんな）を手に黙々と作業に励んでいます。

桶が動かないように道具箱や木槌（きづち）で固定している様子など細かいところまで描いています。

この絵を見ていると、桶が形づくる円の中に、三角形の富士山が小さく描かれています。

もしタイトルを知らされず、富士山を描いた風景画と言う情報がなければ、大きな桶だけに注意がいつてしまって、富士山の存在を見落としてしまうかもしれません。

北斎は、巨大な桶の中に小さく描かれている富士を鑑賞者に発見させることを狙っていたのでしょう。

北斎は五十二才の頃、大阪や伊勢、奈良、和歌山などを訪れて、名古屋の知人のところには半年ほど逗留したそうです。

なので、富士見原も実際に訪れている可能性は高いです。

また、富士見町の地名は「当地から東を眺めると富士山が見えたことに由来する」とする文献もあります。

しかし、1976年3月、名古屋気象台がレーダーを用いて富士見町からは富士山が見えないことを実証しています。

この地点から見える峰は、南アルプスの聖岳（ひじりだけ）で、富士山は南アルプスに遮蔽されて、実際は見えません。

測量技術の発達で、北斎ファンの浪漫（ロマン）を打ち砕いた現実です。

北斎は聖岳を富士山だと思い込んで描いたのか、聖岳だとわかっていたのかは謎です。

しかし、絵画は多分に誇張や思い込みに満ちた芸術です。

「桶屋の富士」は芸術作品として、これからもずっと名画として評価され続けるでしょう。



ここでは「桶」＋季語を詠み込んだ句を選びました。

## 放生（ほうじょう）の鰻は桶の円に沿ふ

大橋敦子

季語 鰻で三夏、放生＝功德（くどく）を積むため生き物を逃がしてやること。

## 丑湯とて朝一番の桶の音

森田 峠

季語 丑湯で晩夏、土用の丑の日に風呂に入ること。

病気をしないまじないとされます。

土用鰻、土用餅、土用灸（きゅう）などと同じく、暑氣中（しょきあた）りを避ける試みの一つ。

北斎の描いた「桶」と同じく容器を描いた西洋画を紹介します。

エドゥアール・マネが「画家中の画家」と呼び、スペイン絵画の黄金時代であった 17 世紀を代表する巨匠、ディエゴ・ベラスケス (1599-1660) の作品「セビーリャの水売り」です。

彼は当初、厨房画 (ボデゴン) と呼ばれる室内情景や容器などの静物を描いた作品を多く制作しました。

中でも、この作品はボデゴンの最高傑作と見られているものです。

ベラスケスの卓越した技法は質感のリアリズムにあります。

この作品の前景の大きな壺を這う水のしずく、グラスに注がれた水の輝き、その左にある壺の表面のハイライト (絵画・写真などで、最も明るく見える部分) など、写実的な油彩画の技法が、マネら近代画家がベラスケスを高く評価するゆえんです。



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:El aguador de Sevilla, por Diego Vel%C3%A1zquez.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:El_aguador_de_Sevilla,_por_Diego_Vel%C3%A1zquez.jpg)

『セビーリャの水売り』ディエゴ・ベラスケス (1599-1660) ロンドン、アプスリー・ハウス

### 3. 富嶽三十六景 十七 甲州三寫越 (こうしゅうみしまごえ)



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Mishima\\_pass\\_in\\_Kai\\_province.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Mishima_pass_in_Kai_province.jpg)

画面中央に天を衝（つ）く巨木が富士山の稜線を隠しそびえ立っています。根本ではその大きさに驚き、太さを測ろうと手をつなぐ旅人の姿や、その近くでは煙管（きせる）で一服する人の姿が見えます。

甲州三島越とは、甲府から河口湖、御殿場を経て三島へと至る鎌倉往還（かまくらおうかん、古代東海道）のことで、本図はその道中の籠坂（かごさか）峠からの景色を描いたものとされています。

巨木の背後には、夏の富士山が配置され、遠近感を駆使して風景を対比させる北斎独特の構図です。富士山の山頂部は藍、裾野は墨のぼかし摺りが用いられ、山頂の笠雲や裾野から湧き上がる雲が、煙が吹き出したような変わった形をしています。

さて、画面中央の巨木は、実は籠坂峠付近にあった事は確認されていません。三島越は富士山の東側を通る道になりますので、富士山の東側は宝永の大噴火の影響を受けていて、火山灰等がかなり堆積した場所でもあることから、巨木も無事である可能性は極めて低いと考えられています。

北斎が、この巨木を配置した理由は富士山の「宝永火口」を隠すためと考えられています。この巨木は籠坂峠からはるか北、現在の山梨県大月市と甲州市の境にある笹子峠（ささごとうげ）の矢立（やたて）の杉を参考にしているとの説が有力です。

北斎自身、「北斎漫画」の中で「矢立の杉」を描いていますし、広重も「諸国名所百景」の中で「矢立の杉」を描いています。

北斎が「矢立の杉」を見た時、旅人たちが手をつないで巨木の大きさを測るほどの大きさに感動し、その姿を富嶽三十六景のどこかで、描き込みたかったのでしょう。

実際の風景をそのまま描くより、読者が期待する、もっともらしい風景を自由に組み合わせたり、デフォルメしてしまうのが北斎、広重など浮世絵師たちの自由な作画姿勢です。

江戸時代に江戸から京都まで旅するとしたら、その費用は現在の 30 万円くらいはかかったとされています。それよりも、一枚 500 円くらいで旅行気分を味わえるガイドブックのような名所画を手に入れることが庶民にとっては現実的で、北斎や広重の名所シリーズの人気の高かった理由の一つと考えられています。

ここでは「杉」+季語を詠み込んだ句を選びました。

## 佛法僧青雲杉に湧き湧ける

水原秋櫻子

季語 「佛法僧」で三夏

「佛法僧」は寺社の森で多く見られる鳥であることから、霊鳥として大切にされていて、国の天然記念物に指定されています。

## 蝉とべり千年杉の塵（ちり）として

百合山羽公

季語 「蝉」で晩夏

西洋画家で「杉の絵」といえば、多くの「糸杉」を描いた、フィンセント・ファン・ゴッホ (1853-1890) です。

ここでは、ゴッホの最も有名な作品の一つであり、問題作でもある「星月夜」を紹介します。

芸術家どうしの理想的な共同生活を夢見たゴッホは、南仏アルルで、ゴーギャンとの短い共同生活を送り、いさかいを原因に自ら耳を切って、精神療養所に入りました。

そして数ヶ月後、サン・レミの病院に移り、この「星月夜」はそこで描かれました。

さて、糸杉はオリーブや夾竹桃 (きょうちくとう)、ひまわり、松などと並んで南仏の風景を特徴づける植物です。

明るい風景の中に点在する黒っぽい樹影はとくに印象的です。

糸杉それ自体、独特の質感を持っていますが、ゴッホの描く糸杉の質感はさらにすさまじいまでの個性を備えています。

うねるような厚塗りの筆触で描いたり、時には短い直線を密に描き込んだりしながら、ゴッホはこの木の醸し出す雰囲気感情をのせて描き上げています。

この絵では、糸杉が地上とそれを取り巻く宇宙とを結びつけ、夜空の三日月や星はどれも大きな光の塊となり、雲が渦を巻いて流れ、夜空が異様な明るさをもって輝いています。

ゴッホは、風景を描くには、実景を前にして制作するのを常としていました。しかし、そのときでも、自然景観は画家の内的な熱情によって描かれます。

この絵でも、実景をもとにしつつ、そこから離れ、画家の欲するがままの自然が表現されています。



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Van\\_Gogh\\_-\\_Starry\\_Night\\_-\\_Google\\_Art\\_Project.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Van_Gogh_-_Starry_Night_-_Google_Art_Project.jpg)

フィンセント・ファン・ゴッホ (1853-1890) 『星月夜』

「凱風快晴」から、一句詠んでみました。

# おゝあれが赤富士眼下機内湧く

白井芳雄

全体を通じての参考文献、出典：編者 日野原健司

『北斎 富嶽三十六景』(岩波書店) (2020年)  
ISBN978-4-00-335811-5

監修・著者 狩野博幸

『葛飾北斎名作 100 選』(宝島社) (2023年)  
ISBN978-4-299-04727-4

監修 永田生慈

『もっと知りたい葛飾北斎 生涯と作品 改訂版』(東京美術) (2022年)  
ISBN978-4-8087-1141-2 C0071

責任編集 山梨俊夫

『テーマで見る世界の名画 全 10 巻 3 風景画 自然との対話と共感』  
(集英社) (2017年)  
ISBN978-4-08-157073-7 C0371

責任編集 木島俊介

『テーマで見る世界の名画 全 10 巻 6 静物画 静かな物への愛着』  
(集英社) (2018年)  
ISBN978-4-08-157076-8 C0371

著者 富田 章

『ゴッホ作品集』(東京美術) (2022年)  
ISBN978-4-7087-1195-5 C0071

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』(講談社) (2008年)  
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 春』(KADOKAWA) (2022年)  
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 夏』(KADOKAWA) (2022年)  
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 秋』(KADOKAWA) (2022年)  
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 冬』(KADOKAWA) (2022年)  
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 [melmaga@tic-co.com](mailto:melmaga@tic-co.com) まで、  
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒 530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F

TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : [info@tic-co.com](mailto:info@tic-co.com)